

<p>支えあい活動内容 (分類)</p>	<p><input type="checkbox"/>外部からの異変発見活動 <input checked="" type="checkbox"/>安否確認・声かけ <input type="checkbox"/>イベントの実施 <input type="checkbox"/>町会活動を利用した活動 <input checked="" type="checkbox"/>地域情報の把握 <input type="checkbox"/>困りごと相談 <input checked="" type="checkbox"/>その他（挨拶状の作成・配付、訪問記録の作成）</p>		
<p>圏域（町会）</p>	<p>南部（C-1-1）</p>	<p>見守り支えあい名簿の提供</p>	<p>有</p>
<p>《活動内容》見守り対象者名簿の提供を受け、町会では、実際に見守り活動を始めるにあたり、次の準備を行った。</p> <p>名簿登載者の中には、町会役員や活動従事者が状況を把握している人も含まれているので、情報を持ち寄り訪問等による状況把握が必要な対象を絞り込んだ。（名簿登載者数184名→訪問等対象者42名）</p> <p>効果的な見守り活動が行えるよう、見守り対象者名簿のデータを元に担当ブロック毎のマップを作成した。</p> <p>事前準備で絞り込んだ訪問対象者について、一切状況把握ができていない人から優先的に訪問活動を開始した。</p> <p>活動を始める前に、見守り訪問活動を実施する旨のお知らせを作成し、町会掲示板、回覧板等で広く周知し、さらに訪問対象者には、個別に訪問のお知らせ文を届けた。</p> <p>訪問活動は、町会長、対象者が居住している区域の町会役員、担当の民生委員で実施した。民生委員については、民生委員としての活動で知り得た情報を本人の前であっても言わないよう守秘義務の徹底をお願いした。</p> <p>訪問活動の結果、現状の確認ができない8人について、後日、民生委員、すこやか福祉センター職員、区民活動センター職員に確認を依頼した。</p> <p>訪問活動によって、これまで利用していた銭湯が近々廃業することとなり、入浴について困っていた人を地域包括支援センターにつないだ結果、週2回ではあるが、デイサービスでの入浴が可能となった事例があった。</p> <p>また、災害時の避難について、バリアフリー環境が整っている避難所を案内した事例、目や耳の不自由な方には緊急通報システムの周知を行った事例などがあった。</p> <p>今回の訪問活動とおし、見守り対象者名簿登載者について、ほぼ現状を把握することができた。今後も定期的な町内のパトロールなどで、引き続き見守り活動を継続していく。</p>			
<p>《成果・課題等》</p> <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守り活動の取組みを通して、町会として改めて地域の状況をよく確認できたことが大きな成果であった。 ・訪問活動をきっかけに、町会への加入についても考えてもらえるようになり、町会加入促進の取組みにもつながった。 ・訪問活動について、回覧板やお知らせ等で、事前周知を行ったことで、訪問を拒否されることもなくスムーズに活動が行えた。むしろ、訪問することを楽しみに待っていた人もいた。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急連絡カードの登録申請が必要と思われる人でも、制度の存在や、登録の方法などを知らない人が多く、広く周知する活動が必要だと感じた。 ・マンション、アパート等では、町会に加入している人が少ない上に、住人同士のつながりがほとんどないため、見守り訪問活動の難しさを感じた。しかし、災害時や緊急時には、地域の一番身近なコミュニティである町会が果たす役割は大きく、身近な町会の活動をもっとPRして、さらに加入促進の取組みを進めていく必要がある。 <p>（まとめ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町会による見守り活動は、民生委員の活動と重なる点も多いが、民生委員とは立場が違う。町会による見守り活動は、必要以上に踏み込まず、自分は地域から見守られているということを知ってもらい、見守られている意識や安心感を持ってもらうことが大切なのではないか。 ・町会による見守り活動は今後も継続していくが、特別なことではなく、町会の日常的な活動や、普段の生活の中で、見守る側、見守られる側双方が負担感なく、さりげない自然な形での見守り活動の輪が広がっていくことを期待する。 			

<p>支えあい活動内容 (分類)</p>	<p><input type="checkbox"/>外部からの異変発見活動 <input checked="" type="checkbox"/>安否確認・声かけ <input type="checkbox"/>イベントの実施 <input type="checkbox"/>町会活動を利用した活動 <input checked="" type="checkbox"/>地域情報の把握 <input type="checkbox"/>困りごと相談 <input checked="" type="checkbox"/>その他（挨拶状の作成・配付、訪問記録の作成）</p>		
<p>圏域（町会）</p>	<p>南部（C-1-2）</p>	<p>見守り支えあい名簿の提供</p>	<p>有</p>
<p>《活動内容》</p> <p>訪問活動の方法については前回報告のとおりである。</p> <p>訪問活動の結果をもとに避難時用のマップを作成した。 見守りが必要と判断した人のうち避難時に介助が必要な人は7名、自力で避難できる人は15名、名簿で障がい者と思われる人について、それぞれ印をつけてわかるようにした。 認知症の講演会に町会から7名出席し、グループワークで検討した結果、物忘れて気がかりな人1名についても印をつけた。</p> <p>今回、工夫した点は配布するチラシである。今後、役員の年齢があがることを踏まえ、見守る側の役員を増やしていきたいと考えている。 配布・掲示板貼りだし用チラシには「町会の運営協力をお願い」の記載をした。 はじめは町会活動の手伝いをするのが可能な人を募り、その中で役員をお願いできる人材を発掘したいと考えている。 また、それとは別に、訪問先には事前に訪問の予定日をいれたチラシを投函していく。</p> <p>春に町会の訪問、夏は民生児童委員による訪問、秋は敬老祝い品の配布があり、1年を通じ見守り活動が継続して実施されるようになっている。</p>			
<p>《成果・課題等》</p> <p>（成果）</p> <p>地域では訪問のチラシなど配布しても、疑念をもたれることもなくなっているようである。これは、町会の見守り活動が地域の方々に認知されてきた結果と考える。</p> <p>（課題）</p> <p>これからは、見守り活動の担い手を増やしていく必要がある。</p>			

支えあい活動内容 (分類)	■外部からの異変発見活動 □安否確認・声かけ □イベントの実施 ■町会活動を利用した活動 □地域情報の把握 □困りごと相談 □その他（集合住宅管理人との連携）		
圏域（町会）	南部（C-2）	見守り支えあい名簿の提供	有
<p>《活動内容》</p> <p>各地区の班長（8班）にその班の地区の見守り対象者名簿登載者を伝え、日常的に見守り活動を行っている。</p> <p>また、防犯パトロール等通常の安全活動の中で「気づき」を意識して巡回している。</p> <p>巡回時や近所からの情報で異常が認められれば速やかにすこやか福祉センターに連絡する態勢をとっている。</p> <p>町会の毎回の理事会時において、「支えあい活動について」という議題を設け、異常の有無を確認している。</p> <p>町会内にある大規模マンションでは見守り対象者名簿登載者が40人程度いることがわかった。管理人が通常行う巡回時や清掃時に、新聞や郵便物をチェックし、異常があれば通報する態勢をとっている。</p>			
<p>《成果・課題等》</p> <p>従来町会でやっていることを変えることなく、通常の安全活動の中に含めることにより、負担なく継続して活動できる。</p> <p>また通常の町会の活動の中でも「気にかける」ということを実践するようになったことによって、地域の輪が拡がりつつある。</p> <p>前述のマンションにおいて、異変の通報を受けた管理人が速やかに警察及び親族に通報し、即座に鍵を開け部屋に入ることができた事例があった。その結果死亡してはいたが、迅速な発見につながった。</p> <p>今後、見守り対象者名簿の登載者に、安否確認のチラシを投函することを検討する。</p> <p>災害時の見守りをどうするかが課題である。</p>			

支えあい活動内容 (分類)	<input type="checkbox"/> 外部からの異変発見活動 <input type="checkbox"/> 安否確認・声かけ <input checked="" type="checkbox"/> イベントの実施 <input checked="" type="checkbox"/> 町会活動を利用した活動 <input type="checkbox"/> 地域情報の把握 <input type="checkbox"/> 困りごと相談 <input type="checkbox"/> その他		
圏域(町会)	南部(C-3)	見守り支えあい名簿の提供	無
<p>《活動内容》</p> <p>地域・隣近所同士のつながりをつくることを意識して、敬老祝品配布、新1年生への祝品配布なども工夫をして実施している。回覧板や防犯パトロールなど日常的な活動も、これらをとおして隣近所で声をかけあったりするきっかけにしたいという思いで行っている。</p> <p>町内に50ほどある地区の地区長は、回覧板を回したり、募金や町会費を集めたりすることとおして、担当する地区に住む町会員の状況については概ね把握している。</p> <p>敬老祝品を配布するために、毎年70歳以上の方の名簿を作成している。数年前から、町会の役員と近所の子どもと一緒に祝品を配布する取り組みを行っている。子どもが自分の名前などを書いたしおりを持参して、高齢者に渡している。この取り組みは、地域で高齢者と子どもが顔見知りになる機会をつくり、日常的に地域であいさつをしたり、声をかけたり、ちょっと気にかけてたりするつながりをつくりたいという思いではじめた。</p> <p>毎年1月に実施する町会の餅つき行事の際には、上記の名簿を活用して、12月に地区長が訪問のうへ「敬老お餅引き換え券」を配布し、当日は高齢者に神社まで足を運んでもらっている。お餅を引き換えて帰宅する高齢者もいるが、町会が用意した豚汁を食べながら歓談して帰る高齢者もいる。当日、足を運べない高齢者には、地区長がお餅を届けている。高齢者が外出する機会をつくり、町会や地域の人たちと顔見知りになることなどをねらって実施しているが、町会の役員が高齢者の様子を確認する機会にもなっている。</p> <p>防災会に配布されている災害時の要援護者の名簿に登載されている方については、民生委員と町会役員とで一緒に訪問している。</p>			
<p>《成果・課題等》</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敬老祝品配布のための名簿作成、町会の役員と地域の子どものよる高齢者宅の訪問、高齢者の餅つき行事への参加などとおして、高齢者と地域・隣近所のつながりができている。 ・上記の取り組みが、町会や地域・隣近所が高齢者の状況を気にしたり確認したりして、見守る取り組みにつながっている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町会に加入していない世帯も多い。町会は地域・隣近所のつながりをつくるさまざまな活動に取り組んでいるので、ぜひ、町会に加入してほしい。一緒に地域や隣近所とのつながりをつくっていききたいと思っている。 			

支えあい活動内容 (分類)	<input type="checkbox"/> 外部からの異変発見活動 <input checked="" type="checkbox"/> 安否確認・声かけ <input type="checkbox"/> イベントの実施 <input checked="" type="checkbox"/> 町会活動を利用した活動 <input type="checkbox"/> 地域情報の把握 <input type="checkbox"/> 困りごと相談 <input type="checkbox"/> その他 ()		
圏域（町会）	南部（C-4）	見守り支えあい名簿の提供	有
<p>《活動内容》</p> <p>地域での見守り支えあい活動の情報交換を踏まえ、民生児童委員と協力体制で名簿を活用した取り組みを始めようということで、平成25年12月初旬に第1回目打ち合わせを実施し、名簿閲覧者になっている町会長・副会長・役員12名で名簿の確認を行った。</p> <p>この結果、状況が把握できない名簿登載者は121名のうち16名であった。この16名について訪問してみることにし、訪問用のマップを作成したところ、町内5ブロックのうち4ブロックに対象者がいることが判明した。</p> <p>訪問は、町会行事の餅つきがある12月22日に実施することとして、事前に町会の掲示板を利用し周知した。訪問当日は、つきたてのお餅をもって、町会長・町会役員と民生児童委員が訪問した。このときに会えた人は7名で、お餅を渡せた方は3名であった。</p> <p>訪問で会えなかった方で、全く状況の把握できない方については、プライバシーに立ち入らない範囲で、集合住宅のオーナーの方などに様子を伺ったり、すこやか福祉センターに確認したりするなどして情報収集を行い、すべての方の状況が確認できた。</p> <p>町会と民生児童委員とはお互いの活動の範囲に考慮しつつ、連携を取りながら地域での見守りを進めている。</p> <p>今後も、定期的に訪問活動を行うことを考えている。近々、第2回目の打ち合わせを開催し、1回目の訪問結果の報告、今後の見守りについて検討を実施する予定である。</p>			
<p>《成果・課題等》</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名簿を確認したことで、これまでの町会活動で把握していた高齢者以外に、どこに見守り支えあいの必要な人が住んでいるか把握できた。 ・名簿を活用するにあたっては、とくに状況が把握できない名簿登載者への対応について、プライバシーの保護など細心の注意を払う必要があると考え、情報収集や訪問などについては慎重に検討のうえ実施することにした。しかし、実際に訪問してみたら、みなさん喜んでくれ、いざというときには一緒に力をあわせていこうという町会の思いを伝えることができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オートロックマンションは、会う前の段階で拒否されてしまうので対応が困難である。 ・今後、長く見守り訪問を継続することを考慮すると、活動の記録が大事になってくる。どのような形式で記録していくか検討が必要である。また、見守る側の人材の確保が重要な課題である。 			

支えあい活動内容 (分類)	<input type="checkbox"/> 外部からの異変発見活動 <input checked="" type="checkbox"/> 安否確認・声かけ <input type="checkbox"/> イベントの実施 <input type="checkbox"/> 町会活動を利用した活動 <input type="checkbox"/> 地域情報の把握 <input type="checkbox"/> 困りごと相談 <input checked="" type="checkbox"/> その他（講座の開催）		
圏域（町会）	南部（C-5）	見守り支えあい名簿の提供	有
<p>《活動内容》</p> <p>平成25年8月に見守り支えあい名簿を受け取り、10月に名簿閲覧者（町会長・町会役員）で打ち合わせを行った。</p> <p>名簿に掲載された人は125名であったが、全ての人を訪問するのは負担が大きいため、状況が把握できていない人を訪問対象とすることとし、まず、名簿閲覧者が名簿を確認しながら、状況を把握していない人の絞り込みを行った。</p> <p>その結果、34名が訪問対象者となり、A班、B班に分けて訪問することにした。訪問は町会長と町会役員が行った。</p> <p>10月中にA班で訪問を実施し、ほとんどの人に会うことができたが、元気な一人暮らしの人が多かった。心配な人については、お互いに連絡をとりあって見守りをしたいと考えて訪問したが、隣近所と仲良く暮らしている方、家族が定期的に訪ねてきてくれる方などいて、継続的に見守りなどが必要な方はいなかった。</p> <p>11月にはB班の訪問も終了し、その結果、訪問できた人の中には特に心配で継続的な見守りが必要な人はいなかった。</p> <p>6月に入ったら、2回目の訪問を実施する予定である。</p> <p>また、訪問活動に先立って、平成25年9月には地域の支えあい活動推進の一環として、町会の厚生部主催で南中野地域包括支援センターと連携し、「認知症サポーター養成講座」を開催した。この講座で得た知識が通常の見守り支えあい活動、訪問時の対応などに役立っている。</p>			
<p>《成果・課題等》</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問活動を行ったことにより、買い物の途中などで、訪問した方から声をかけられるなど、訪問を通じて地域のつながりが構築されているという実感がある。 ・隣近所同士で日常的に顔を合わせたり、声をかけたりする機会をつくるのが大切であると実感した。町会の回覧板も、隣近所が顔をあわせる一つの手段になる。 ・訪問に先立って実施した「認知症サポーター養成講座」で得た知識が、訪問時の対応に役立ち、通常の見守り支えあい活動にも活かされている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員の高齢者訪問などでもまったく会えていない人に対して、いかにアプローチしていくか検討が必要であるが、難しい課題である。 			

支えあい活動内容 (分類)	<input type="checkbox"/> 外部からの異変発見活動 <input checked="" type="checkbox"/> 安否確認・声かけ <input type="checkbox"/> イベントの実施 <input type="checkbox"/> 町会活動を利用した活動 <input type="checkbox"/> 地域情報の把握 <input type="checkbox"/> 困りごと相談 <input type="checkbox"/> その他		
圏域（町会）	南部（C-6）	見守り支えあい名簿の提供	有
<p>《活動内容》</p> <p>平成25年8月に名簿を受け取り、名簿閲覧者7名中5名による打ち合わせを実施した。民生児童委員と相談して担当する番地ごとの地図を作って、担当を割り振って訪問を実施することとした。</p> <p>名簿掲載者は76名で名簿を確認したところ、元気だとわかっている人も多かったが、それでも名簿掲載者全員を訪問の対象とし、警察署の振り込め詐欺の注意喚起のチラシなどをもって訪問を行った。</p> <p>11月から訪問を実施した結果、実際に会えた方については元気な人が多かった。</p> <p>ひとり暮らしの高齢者はそれぞれ知恵を出して暮らしていることがわかって、少し安心した。中には近所の方とお互いにわかるように合図の取り決めをしている人もいた。</p> <p>訪問時に2階にいと降りてくるのが大変な人もいて、インターホンだけで確認する方法なども、今後、検討する。また、耳が遠くなっている人はインターホンを押してもなかなか出てこないの、今後は、事前に訪問を周知するチラシを届けたり、訪問時に会えなかった人には不在票を置いてきて相手からの連絡を待ったりするなど、訪問方法も工夫したい。</p>			
<p>《成果・課題等》</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問前は負担感があったが、名簿閲覧者で分担して訪問したところ、実際の負担はそれほどでもないことがわかった。 ・名簿掲載者全員を訪問したことで、地域に住む高齢者の状況や知恵を絞ってさまざま工夫して暮らしている様子などがわかった。これらを今後の見守り支えあい活動に活かし、訪問方法なども工夫することで、さらに効果的な活動が期待できる。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気難しい方で大勢の方とはお付き合いできず、限られた隣人のみで見守っていた人で、元気に見えていたのに1か月のあいだで、突然亡くなってしまった事例があった。見守り支えあいのための訪問活動をしていても、その様なことはある。訪問活動をしてみて、こうした事例をどう受け止めていくのか、見守り活動の難しさを感じる。 			

<p>支えあい活動内容 (分類)</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/>外部からの異変発見活動 <input checked="" type="checkbox"/>安否確認・声かけ <input type="checkbox"/>イベントの実施 <input type="checkbox"/>町会活動を利用した活動 <input type="checkbox"/>地域情報の把握 <input type="checkbox"/>困りごと相談 <input type="checkbox"/>その他 </p>		
<p>圏域（町会）</p>	<p>南部（C-7）</p>	<p>見守り支えあい名簿の提供</p>	<p>有</p>
<p>《活動内容》</p> <p>平成25年8月に名簿を受け取った。見守り支えあい訪問の方法の構築に関しては、閲覧者のうち3名が中心となって企画し、活動の目的を町会に周知していく役割も担った。</p> <p>町会の理事は31名であり、各自に認識の相違があったので、共通認識がもてるように理事会等で説明を実施した。</p> <p>訪問などに活用するマップを作成するのは閲覧者である部長の役割とし、マップ作成の際には名簿を確認して、元気だとわかっている人を対象から除いた。</p> <p>12月から3月までの行動計画を作り、訪問の1週間前に事前周知のポスティングを行ったうえで訪問を実施した。訪問の対象者は状況が把握できていない22名。その後2名が亡くなり20名となった。</p> <p>第2，第4木曜日にパトロールを行っているので、訪問とパトロールによって、昼夜の状態を見守っていく。</p> <p>訪問の内容などを記録したカードを作成し、月1回の報告会では、これを活用して情報を共有している。また、だれがいつ訪問するかなどの計画書も作成している。</p> <p>マップや訪問の記録は、個人情報保護の観点から、住所などは記入せず名字だけ記入して管理している。</p> <p>報告会で情報交換しながら、具体的な行動をお互いに理解し、共通認識をもてるように取り組んでいる。</p> <p>今後は、見守りの頻度を高めるために、電話連絡をすることも検討している。</p>			
<p>《成果・課題等》</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明会や報告会の開催などによって、見守り活動を行っている町会役員等の中で、共通の認識をもてたことにより、訪問が円滑に進み見守りの対象者を把握することができた。 ・訪問活動とパトロールの取り組みなどを組み合わせた見守り活動が構築できた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名簿掲載者のうち町会員であれば把握が容易であるが、町会に入っていない人をどう把握していくかが課題である。 ・見守りの対象となった人への対応の次のステップとして、老人会への加入を勧めたりしているが、社会福祉協議会の支援を得た「まちなかサロン」などを活用して高齢者の居場所を作ることも検討していく。 			